



今回の再認定は、2009年の認定から4年間、地域住民と関係機関が一体となって取り組んできた防災教育へのジオパークの積極的活用やジオサイトの保全活動、

さらに観光関係者との連携によるジオパークのPR活動などについて、各審査員に高く評価された結果だと考えております。

今後も洞爺湖有珠山ジオパークとしての連携を深め、日本におけるジオパークのフロントランナーとして、質の高い活動に取り組んでまいります。

再認定に向けてそれぞれの立場でご尽力・ご協力をいただいた方々に心から感謝を申し上げます。

洞爺湖有珠山ジオパーク協議会
会長 真屋敏春

世界ジオパーク 洞爺湖有珠山再認定！



再認定を受け挨拶する真屋会長

2009年に、世界的に貴重な地質遺産として世界ジオパークに認定された「洞爺湖有珠山ジオパーク」が、9月9日「世界ジオパークネットワーク」から再認定されました。韓国・济州島で開催された、アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムで発表され、同大会に出席した、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会副会長の工藤國夫豊浦町長から電話連絡で、吉報が知らされました。4年に一度の再審査として、今年7月にヨーロッパの地質学者2人が現地に入り、噴火遺構などのジオサイトの整備状況やガイドなどのPR活動について審査。行政や専門機関の支援体制や火山マイスター制度、防災教育への取組みなどが高い評価を受けました。



再認定の知らせを受け喜びを表す首長ら

テーマーチ ウォーキング

全国のウォーカーにも負けず完歩！

初秋の洞爺湖を歩く北海道テーマーチ（洞爺湖町・日本ウォーキング協会主催）が、9月14日から2日間の日程で開催し、全国からのべ約1,300人のウォーカーが健脚を競い合いました。

初日は、朝からのぐずついた天候の中、「洞爺湖ぐるっとジオコース」（40キロ）に参加した362人が「行つてきまーす」と元気に洞爺湖畔の会場をスタート。引き続き「洞爺湖・豊浦ジオコース」（20キロ）を始め、10

キロ、5キロの各コースの参加者も出発し、途中土砂降りの雨に見舞われながら、ゴールを目指しました。

2日目は、「伊達・有珠山ぐるっとジオコース」（30キロ）を含め4コースが、雨の中で実施。途中から土砂降りとなり、ウォーカーは濡れになりながら、完歩を目標に歩き続けました。会場では、ロータリークラブの会員の皆さんが、オニオンスープなどを振る舞い、歩き疲れたウォーカーを和ませました。



ウォーカーが先頭にゴールをめざす



ウォーカーが湖畔の下空もくもく